

編集後記：大阪に単身赴任して2年が過ぎ、3年目に突入しました。前回に編集後記を担当したときは、赴任直後の一昨年の8月で、猛暑日（最高気温35℃以上）の日数が過去最高となり大阪の暑さに閉口した旨の内容を書きました。あれから3回目の夏の暑さを経験していますが、相変わらず大阪の暑さに閉口しています。今年は大阪府北部地震や平成30年7月豪雨と西日本では立て続けに大きな自然災害に見舞われ、慌しく、緊張しながら過ごしたあとでしたので、なおさら身体に応える暑さですが、被災された方々に比べれば贅沢言ってる場合ではないですね。

6月18日朝に発生した大阪府北部地震では、私はちょうど地下鉄車内で地震に遭い、幸い電車是最寄りの駅に到着しましたが、強制的に駅から退避させられ、約4kmの道のりを徒歩で出社しました。大阪市内は平静でしたが、大阪市からさほど離れていないにもかかわらず、震源付近の高槻市周辺では被害にあった家屋が多数あり、屋根にはブルーシートがかぶさった光景がしばらく続きました。熊本地震の例からさらに大きな本震がやってくる可能性も示唆されたことも

あり、緊張しながら過ごしたことが思い出されます。

大阪府北部地震の発生から3週間も経たないうちに、西日本では未曾有の豪雨災害が発生しました。平成30年7月豪雨では、1府10県に大雨特別警報が発表されましたが、これだけ広域に大雨が継続したことは、私の経験と記憶にありません。ですが、事前にかんがりの雨量が予測されていたので、淀川氾濫など各地の過去の水害の記録を調べ、どんな対応が想定されそうか考えつつ、緊張しながら、職場では早めに大雨対応の体制を組み、慌しく過ごしました。とにかく緊張の連続でした。将来、今回と同様な規模、あるいはそれ以上の規模の豪雨災害が発生するか分かりませんが、今回の豪雨災害をしっかりと検証して今後に役立てていきたいものです。

平成30年7月豪雨に関して様々な角度から研究が進められていると思います。研究成果に期待するとともに、論文、短報等として「天気」への投稿もお待ちしています。

(田口晶彦)